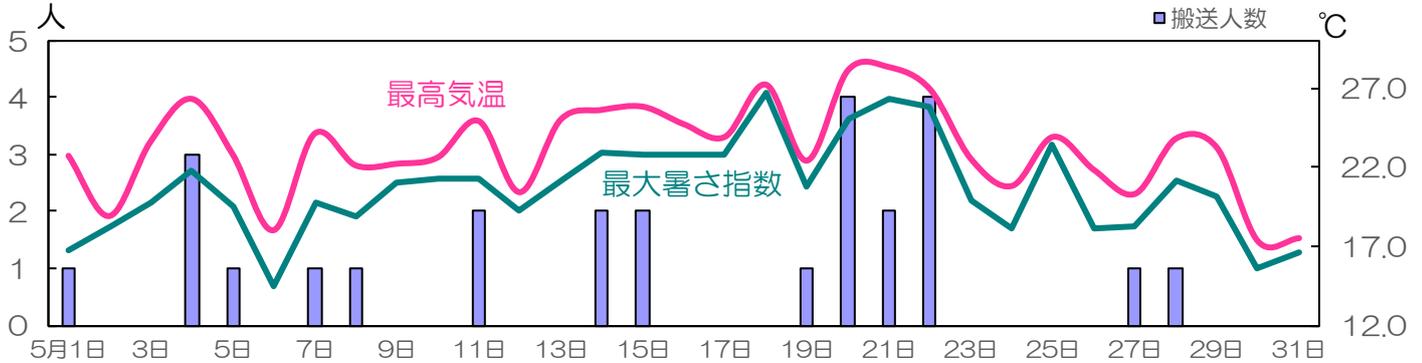


# 熱中症情報

## <搬送数>

令和7年5月1～31日までの搬送数（消防局データを使用）は、計26人でした。5月20・22日は、搬送数が4人/日と、期間内で最多を記録しました。5月20日は、最高気温が28.1℃、5月22日は、最高気温が26.9℃で、両日とも真夏日でした。



熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

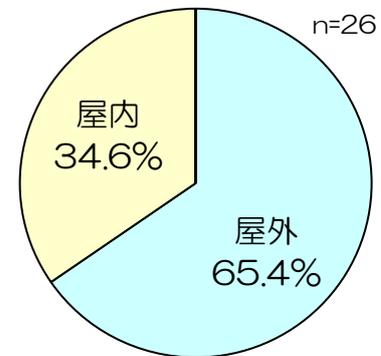
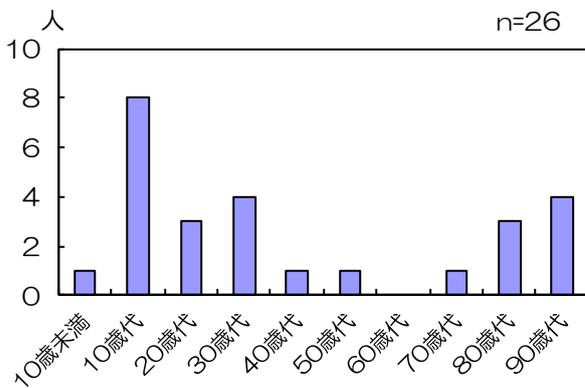
**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

## <年齢別>

10歳代が8人（30.8%）で最も多く、

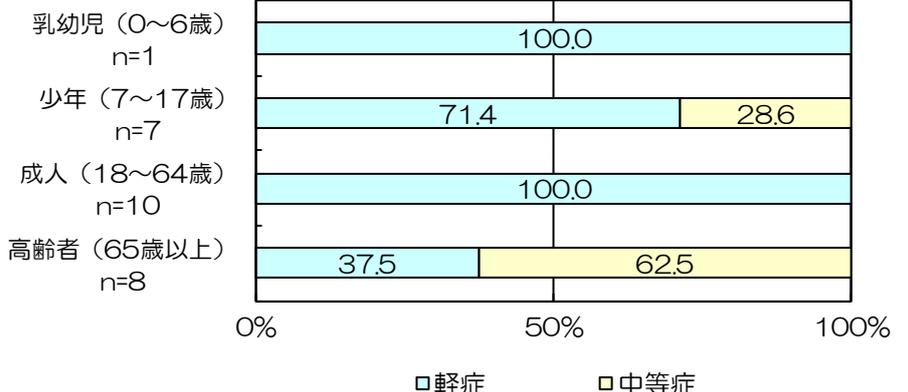
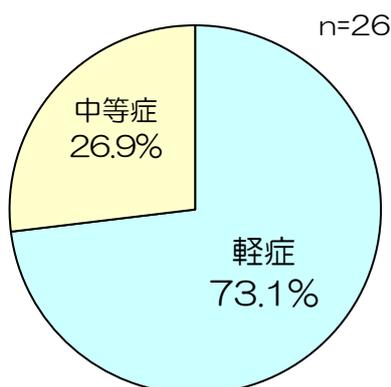
## <発生場所>

屋外65.4%、屋内34.6%で、次が30・90歳代で4人（15.4%）でした。



## <重症度\*>

軽症73.1%、中等症26.9%でした。スポーツ（部活動等）中や終了後、歩行中（帰宅途中）に起きていました。



\*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。